

東高 国際だより

平成31年1月15日
京都府立東舞鶴高等学校
国際教育部発行

2018 vol. 9

2年国際文化コース 台湾旅行研修 12月1日～12月5日

以下の日程で台湾研修旅行を行いました。

- 1日目 関西国際空港→桃園国際空港、龍山寺観光
- 2日目 忠烈祠、国立故宮博物院、台北101観光、英語インタビュー活動、士林夜市散策
- 3日目 九份観光、地元の大学生による市内観光案内と班別活動、京劇鑑賞
- 4日目 台湾市立陽明高校、東呉大学との交流会
- 5日目 桃園国際空港→関西国際空港

英語でのインタビュー活動では、台湾の原宿と呼ばれる西門町で、グループに分かれて街頭インタビューをしました。



飲茶を食べているところです。



研修4日目の12月4日は午前中に台北市立陽明高級中学、午後は東呉大学日本語学科を訪問し、高校生と大学生と交流しました。高級中学では、全体で舞鶴・東高の紹介プレゼンの後、日本と台湾の食文化を紹介し合いました。東呉大学では同様の活動の他に舞鶴弁を教える活動も取り入れました。



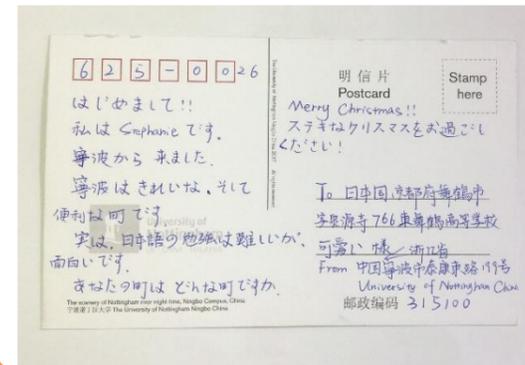
[写真: 中] 日本のインスタント麺を食べてもらっています。[写真: 右] 餃子を作らせてもらいました。
台湾朋友們再見面！台湾の皆さん、またお会いしましょう！

研修旅行を終えて 岡田 瑞希(白糸中出身)

改めて国際文化コースを選んできたと思いましたが、台湾の文化を味わうだけでなく、現地の人との交流が楽しかったです。日本と違った交通や食事などに対応するのに少し大変なときもありましたが、今ではそれを「台湾の文化」として受け入れることができるようになりました。台湾の学生さんの流暢な英語にも刺激を受けました。とても楽しかった！また台湾を訪れたい！

2年国際文化コース 中国の大学生とはかきで交流

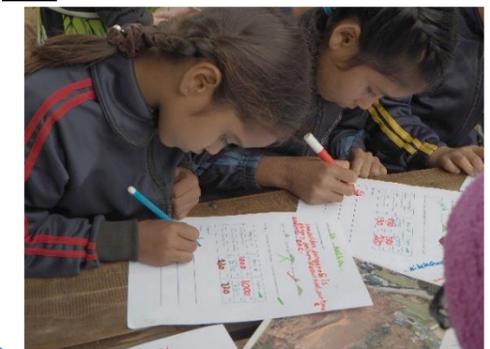
12月12日、国語の授業で、浙江省寧波市にあるノッティンガム大学中国校で日本語を学んでいる学生30名からの手紙に返事を書く活動を行いました。下は手紙の一例です。



生徒会主催 ネパールの子供達へ文房具を贈る活動

生徒会長 河島 佑気(青葉中出身)
11月21日～12月20日の間に集まった文房具は総計3.15キロとなり、JICAを通じてネパールの学校に贈りました。ご協力ありがとうございました。

[写真] 実際に文房具を使っている子どもたち



東高先生の Another Sky 8回目 山口 有希 先生(体育科)

18歳の夏、初めて海外遠征をした。目的地は陸上王国「ジャマイカ」だ。世界ジュニア選手権大会(20歳未満の世界大会)に出場することになり、不安よりも「やってやるぞ」という気持ちで満ちあふれていた。しかし、いざ現地に到着してみると、20時間以上の移動疲れや時差ぼけで体がおそろしくだるい... 食事が全く口に合わない... (1週間で3キロ減)。シャワーは水しか出ない...。競技場のトラックは日本と違って走りにくい。その上、自分よりはるかに大きな体格で凄いオーラを放つ外国選手が怖い...。自分自身への期待とは裏腹に、弱気になった私は全く本来の走りが出来ずあっけなく敗れ去り、情けない思いでいっぱいになった。追い打ちをかけるように、その大会である選手に凄まじい走りを見せつけられる。当時、15歳のウサイン・ボルト選手である。大学生が競い合う大会で、高校1年生のボルト選手がまさかの優勝をさらってしまったのだ。そんなばかな！ありえない！私が想像していたレベルをはるかに越える異次元の走りを目の当たりにし、絶対にこんな選手に勝てるわけがないという思いと、でも追いつきたいと強い願望が湧いた。苦い苦い初海外だったが、この経験は私の意識を大きく変えてくれた。それからは、いつもそのときの悔しさを思い出し、誰にも負けない日本一の練習を積み重ねようと真剣に自分と向き合った。そして3年後、私はアテネオリンピックの決勝の舞台にいた。スタートラインに立ったとき「大丈夫！あんなに練習してきたんだから！！」そう思えたのは、きっとこのジャマイカでの悔しさがあったからだろう。

競技者としての飛躍のきっかけをくれたのは、間違いなく世界での経験だ。そこには自分の甘さに気づかせてくれる厳しい環境があり、私の既存概念を壊してくれる異次元の世界があった。誰にでも、人生の中でこういった大きなきっかけやチャンスが必ずあるだろう。そのチャンスを逃さず、必死でつかみ取れるようにしてほしい。そのためには何気ない日常をどのように過ごすかじゃないだろうか。「今」、この一瞬一瞬を懸命に生きているか。すぐに怠けてしまう自分に日々言い聞かせ、今日も目の前の目標に向かって突き進んでいこう。



「国際だより」は下のQRコードからもアクセスできます。

